

もくじ

●演奏する前に	
① ギター各部名称	3
●ピッキングに関するテクニック	
② ピッキング	4
③ ストローク(カッティング) ―	6
④ ブリッジ・ミュート —————	8
⑤ ブラッシング ————————————————————————————————————	10
⑥ トレモロ(ピッキング) ―――	12
⑦ ピッキング・ハーモニックス ―――	14
⑧ スウィープ・ピッキング ――――	16
▲ ¬ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
●フィンガリングに関するテクニック ⑨ チョーキング1(アップ&ダウン) ――――――	40
⑨ チョーキング 「(アック&ダウン) ――――⑩ チョーキング 2 (ハーモナイズド&ダブル) ―――	
① アョーイングと(ハーモ)イスト&ダブル) ―――	
① トリル ———————————————————————————————————	
③ スライド ————————————————————————————————————	
(4) グリッサンド ————————————————————————————————————	
(§ ビブラート	
(6) オクターブ奏法	
●その他の奏法	
① アーミング	
18 スクラッチ	
19 ハーモニックス ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	
② タッピング	
② フィードバック奏法 ―――――	
② スライド・ギター (ボトルネック奏法) ――――	
② ボリューム奏法 & スイッチング奏法	
② アルペジオ —	
② スラッピング	52

■ 演奏する前に... ■

①ギター各部名称

(名称は、ビデオ本編でチェックして下さい)

●ギターを購入する際のチェックポイント&普段のお手入れ方法

はじめてギターを購入する際は、とかく分からない事だらけです。色とか 形とか見た目で選んでしまうのは仕方のない事でしょう。しかし、ギターと いうものは自分の身体の一部のように長く付き合っていくモノですから、や はり弾きやすいということが購入するうえでの第一条件になってくると思い ます。奇抜な形に魅せられ、カッコイイだけで買ってしまったギターが実は 案外弾きにくく、上達の妨げになってしまう事もあるのです。特に初心者の かたはオーソドックスな弾きやすい形のギターを選ぶことが上達の近道でし ょう。奇抜な形のギター等は、ある程度基礎が出来てから使うのであれば、 じゅうぶん弾きこなす事が出来ると思います。また、ギターという楽器は各 パーツのバランスが非常に大事なので、なるべくネックとボディの良いもの を購入する事もポイントのひとつだと思います(ピックアップ等のパーツは 後からでも交換可能)。そして、お店で売っている新品のギターは、ほとんど のものが調整されていない状態です。これをキチンと使える(弾きやすい)状 態にするのも初心者ではなかなか難しい事だと思いますので、専門のギタ --リペアー・ショップ等へ持っていけば、とても弾きやすい状態に調整して もらえるでしょう。

普段のお手入れについては、使った後、必ず弦だけは乾いた布等で拭くようにしましょう。そうしておけば、弦も錆びないで多少は長持ちすると思います。ギターの保管場所は高温多湿な所を避け、直射日光等が当たらない涼しい所がベストです。とにかくギターは湿気をきらいますから乾燥剤等をケースに入れておくのも良いでしょう。

■ ピッキングに関するテクニック ■

②ピッキング

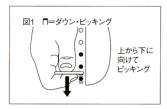
□ , ∨

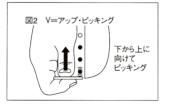
●ダウン・ピッキングとアップ・ピッキング

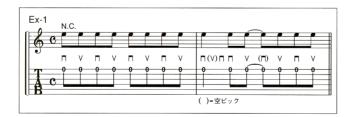
弦をはじくピッキングの方向は、図1のダウン・ピッキングと図2のアップ・ピッキングの2種類。記号はそれぞれ 「と V を用いるが、スウィープ・ピッキング(P.16参照)などの特殊なピッキング・テクニックを使用する場合以外は、特にピッキング順を指定しないのが普通。

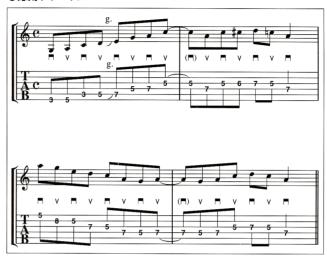
●オルタネイト・ピッキング

ダウン&アップの両ピッキングを、8分音符や16分音符などの一定のタイミングで交互にくり返すピッキング・スタイル。ピッキング動作の規則性と画一化によるリズム・キープの容易さが最大の利点だ。Ex-1 は8分音符でのオルタネイト・ピッキングの例。2小節目のようにピッキングが不要な箇所でも規則的なピッキング動作をキープするための空振り(これを"空ピック"と呼ぶ)を入れて弾くのが基本。









③ストローク(カッティング)

コードなど複数の弦をまとめて弾く場合のピッキング動作をストローク (またはカッティング)と呼ぶ (Ex-2)。記号は単弦系のピッキングと同様に、 ダウン・ストロークを 「、アップ・ストロークを V で表わすが、これも通常 はほどんど指定されない。写真①②にストロークの基本動作を示しておく。

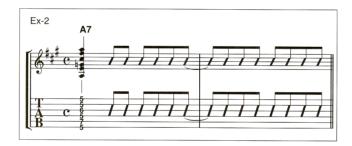
ダウン・ストローク

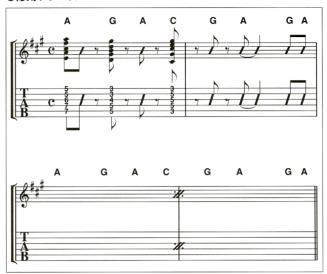


アップ・ストローク



ダウン&アップの両ストロークともヒジを支点に腕を大きく振る動きと、手首から先の"払い&返し"を併用する





④ブリッジ・ミュート

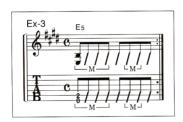
Mまたは mute

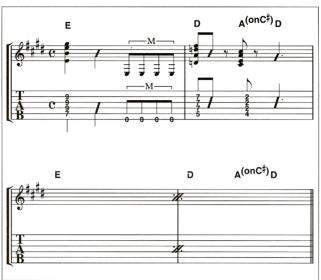
右手の側面をブリッジ付近に乗せて弾くことで弦の振動を抑え(写真③)、 "ポコポコ"とつまったような音を出す奏法がブリッジ(またはパーム)ミュート。Ex-3 は複音のブリッジ・ミュートの例。ブリッジ・ミュートに対し、譜例後半のミュートしない部分を"ノン・ミュート(またはオープン)"と呼ぶ場合もある。

ブリッジ(パーム)・ミュート



手のひらの小指側側面をブリッジに乗せ てピッキングする

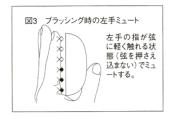


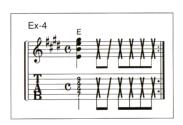


⑤ブラッシング



図3のように、左手で弦をミュート(消音)した状態でストロークすると、音程感のないパーカッシブなピッキング音が得られる。これがブラッシング。 リズミックなコード演奏に欠かせない奏法のひとつ(Ex-4)。



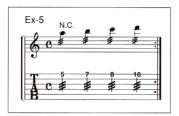


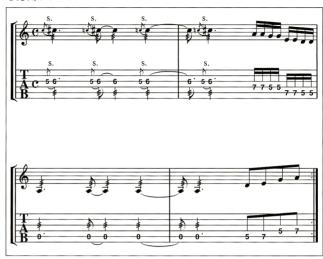


⑥トレモロ(ピッキング)



オルタネイト・ピッキング (P.4参照) で同じ音を細かくくり返して弾く、別名 "マンドリン奏法"。スピーディかつ均一にピッキングするのがポイント。そのタイミングは (テンポにもよるが) 16 分音符~6連符~32 分音符あたりの範囲で演奏される。同じ弦の上を移動していく Ex-5 はその最も基本的なアプローチだ。



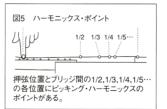


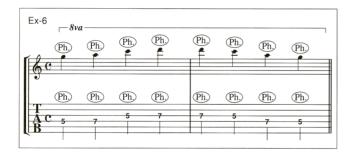
⑦ピッキング・ハーモニックス

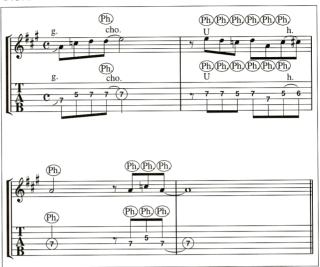
○またはPh

ピックの先端と一緒に親指の側面も弦に触れさせておき(図4)、そのままの状態でダウン・ピッキングして"キーン"という鋭角的なハーモニックス音を出す奏法(Ex-6)。通常よりも弦に対するピックの角度を大きくして(斜めに当てて)、図5に示したハーモニックス・ポイントを狙って弾くと、うまくハーモニックス音が出るはず(ハーモニックス音の音程は各ハーモニックス・ポイントごとに違う)。





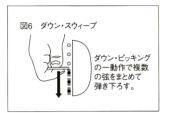


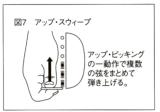


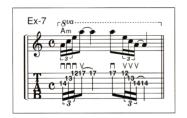
®スウィープ・ピッキング

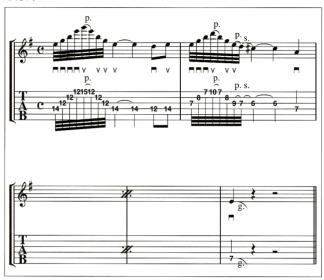
複数の弦を、ダウンまたはアップの一方向かつ一動作のピッキングで一気に弾いていく、高速の弦移動型フレーズ向きのピッキング・テクニック。何よりもそのスピードが最大の魅力だ。低音弦側(6弦側)から高音弦(1弦側)に向かって移動する場合は"ダウ~ンッ"(図6)、逆方向の場合は"ア~ップ"(図7)のワン・ピッキングのイメージで、複数の弦を一気に弾いていく。Ex-7前半はダウン・スウィープ、後半はアップ・スウィープの例。

ただこの奏法は一応ピッキング・テクニックのひとつとして分類されるが、 むしろ各音が重なり合わないように音を順に分離させていく、左手の押弦& ミュート動作の方が鍵を握る複合テクニックでもある。









■ フィンガリングに関するテクニック ■

⑨チョーキング 1 (アップ&ダウン)

●チョーク・アップ

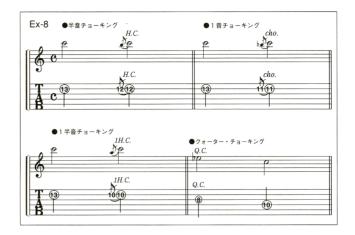
H.C. cho. 1H.C. 2 C. Q.C.

押さえている弦をそのまま押し上げ、または引き下げて(一般的に 1~3 弦は押し上げ、4 弦はケース・バイ・ケース、5、6 弦は引き下げて弾く)音程を変化させる、ロック・ギターの象徴的なテクニック。写真④はその基本フォーム。チョーキング(ちなみにこの名称は和製英語。英語では"ベンディング(=ben ding)"または"ベンド"と呼ぶ)は、その音程幅ごとに半音(= 1 フレット分)、1音(= 2 フレット分)、そして"ワイド・ベンド"とも呼ばれる1音半(= 3 フレット分)、などの各チョーキングに分類される(Ex-8で各チョーキング幅を確認してみよう)。中でもプレーン弦を用いた半音と1音の両チョーキングは最も登場頻度が高い。なおEx-8の最後に示したクォーター・チョーキングは1/4音(1 フレット分の半分程度の微妙な音程)のチョーキングのことを指すが、その音程にこだわるよりも、"気持ちチョーク・アップする"ことで音にネバリ感を与える……このイメージで弾く方が正解だろう。

チョーキングの基本フォーム



ネック上に出した親指を支点に手首全体 を回転させるように押し上げる



●チョーク・ダウン

C.D. s.t. t.d.

チョーキングした音を元に戻す (音程を下げる) 奏法……つまりチョーキングの逆作業 (写真⑤)。タイプ別に見ると Ex-9® のチョーキングとの連結プレイと、9⑤ に示した (音を出さないで) あらかじめチョーク・アップしておいた状態からピッキングしてチョーク・ダウンさせるという 2 タイプがある。後者の場合はチョーキングの場合と同様に、チョーキング幅を示す記号を明記して、そのあとに U 印のアップ記号をつけた H.U 、U 、U 、IH.U 、U (それぞれ半音、 1 音半、 2 音のチョーク・アップ状態を示す) の記号が用いられる。

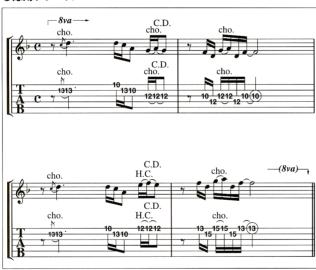
チョーク・ダウンの基本動作



チョーク・アップした音の押弦状態をキープしたまま、音が途切れないように元に戻す

Ex-9 (a) c.D. (b) c.D. (cho. C.D.

メモ



10チョーキング 2 (ハーモナイズド&ダブル)

●ハーモナイズド・チョーキング

なし (チョーキング幅の指定)

チョーキングを絡めた2本の弦の組み合わせで、あるハーモニー(音程)を作るチョーキングのバリエーション・テクニック。大別すると、片方の弦だけチョーキングする写真⑥aと、両方の弦をチョーキングする⑥bの2タイプに分類できる(Ex-10)。

◎ 2 タイプのハーモナイズド・チョーキング例◎

a:押弦音&チョーキング音



2 弦 8 f の押弦音と 3 弦 7 f の 1 音チョーキングを、2 音同時に弾く

b:チョーキング音&チョーキング音



2弦7fの半音チョーキングと3弦7fの 1音チョーキングを2音同時に弾く

w.cho.

●ダブル(ユニゾン)・チョーキング

2本のプレーン弦を使って、押弦音と1音チョーキングの組み合わせでユニゾン(同一の)音程を作る、ハーモナイズド・チョーキングのひと形態。使用弦別に見ると、写真⑦aの"1&2弦使用型"(Ex-11)と⑦bの"2&3弦使用型"のふたつに分類される。ワイルドに攻めるならチョーキング音にビブラート(P.32参照)をかけてみよう。

◎ダブル・チョーキングの2種類のフォーム◎

a:1 & 2 弦使用型

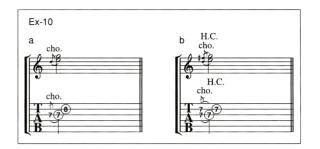


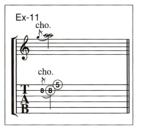
1 弦 5 f の押弦音と 2 弦 8 f の 1 音チョー キングをユニゾンで重ねる

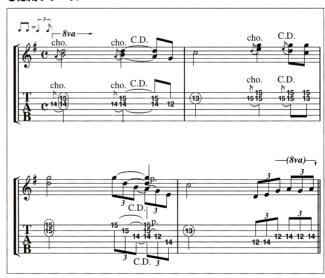
b:2 & 3 弦使用型



2 弦 5 f の押弦音と 3 弦 7 f の 1 音チョー キングをユニゾンで重ねる







⑪ハンマリング&プリング

●ハンマリング

h.または*H*.

ある音をピッキングしたあと、同じ弦上のハイ・ポジション側のフレット間に左手の指を叩きつける要領で(ピッキングせずに)音を出す奏法(Ex-12)。写真®には押弦音からのハンマリング動作を示しておくが、開放弦を出発点とするハンマリングも当然可能。

ハンマリングの基本動作



押弦音をピッキングして……



写真のように最初に押さえていた指を離 してはダメ

*p.*またはP.

●プリング

ある音をピッキングしたあと、その押弦指で弦を下側に向けて引っかけて (ハジいて)ロー・ポジション側の音をノー・ピッキングで出す、ハンマリングとは逆の奏法 (写真⑨、Ex-13)。当然、開放弦に向けてプリングすることもできる。

プリングの基本動作作

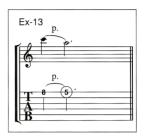


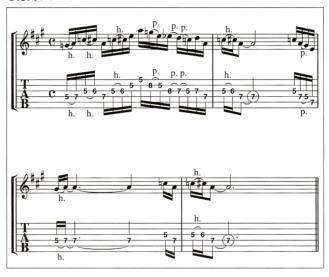
出発音をピッキング。次の音(目標音)もあらかじめ押さえておく。



押弦指を下側にハジいて次の音を出す



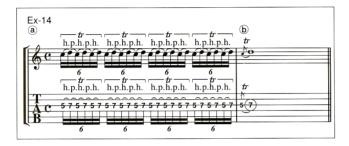


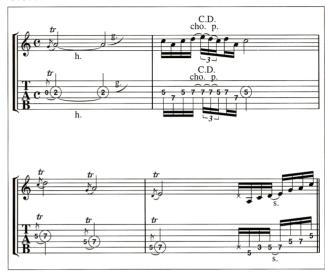


⑫トリル

tr

ハンマリングとプリングを連続させて、同じ弦上のふたつの音をノー・ピッキングで素早くくり返す奏法。そのタイミングは特に指定されている場合 (Ex-14®) を除き、演奏者に任せられる (Ex-14®)。





13スライド

s.

出発音から目標音に向けて、同じ弦上で押弦指を滑らせてふたつの音を滑らかに連結する奏法(写真⑩)。スライドを利用したポジション連結やスライドの距離が長い場合などは、手首全体を移動させていくが、狭い範囲のスライドでは(フレージングにもよるが)左手親指を動かさないで押弦指側だけでスライドさせるのがコツ。

スライドの押弦指の動作

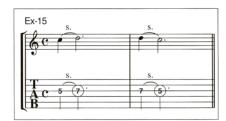


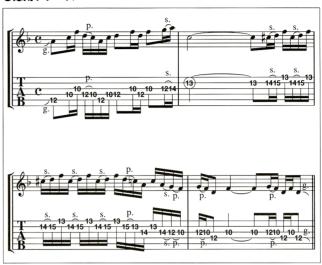




出発音の押弦状態をキープして……

音が途切れないように目標音まで移動



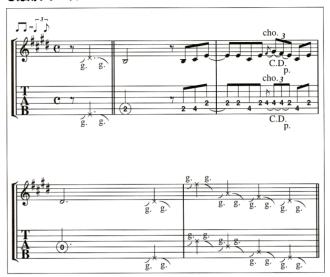


14グリッサンド

g.

同じ弦上で指を滑らせて音程を変化させる点はスライドと同様だが、スライドではその出発音と到達音の両方が明瞭なのに対し、そのどちらか一方 (または両方)が特定されない任意のアバウトな音程であるものをグリッサンド (グリス) と呼んで区別している。Ex-16 (3) は到達音のみが、Ex-16 (3) は一点ともアバウトで Ex-16 (4) は一点ともアバウトで Ex-16 (5) なお譜面上の Ex-16 (6) は両点ともアバウトで Ex-16 (6) は両点ともアバウトで Ex-16 (7) なお譜面上の Ex-16 (7) が表する場合も多い。





15ビブラート

…または*Vib*.

音程を揺らして、音にうねりを加えるフィンガー・テクニック(Ex-17)。エレクトリック・ギターでは写真①&②のように、弦を垂直方向に上下動させる"タテ型ビブラート"が多用されるが、ガット弦ギターなどのアコースティック楽器では、それとは異なるニュアンスが得られる写真③の"クラシック・ビブラート"も使用される。いずれにしても、一定の揺れ幅とスピードをキープするのがビブラート全般の大切なポイント。

垂直方向のビブラート



半音程度のチョーク・アップとチョーク・ダウンの細かいくり返し

チョーキング・ビブラート



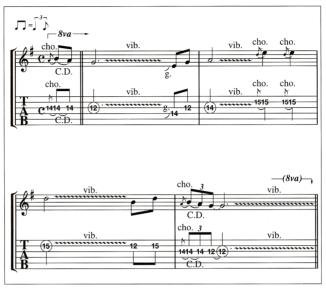
チョーキングした音にタテ方向のビ ブラートを加える

クラシック・ビブラート



押弦音を軸に、手首全体を水平方向 (左右)に揺らす

vib.



16オクターブ奏法

なし (音符&TAB譜の指定)

1オクターブ離れたふたつの音を同時に弾く奏法。写真⑭aは1&3弦、または2&4弦を用いる場合。⑭bは3&5弦、または4&6弦を用いる場合のフォーム。両者とも押弦する2音以外の不要弦は、人差指の腹や先端部、そして他の指などを活用してミュートしておく(Ex-18)。

◎オクターブ奏法のフォーム◎

a:1 & 3 弦のフォーム

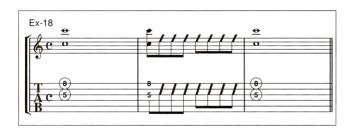






2 & 4 弦を使う場合も同じフォーム

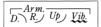
4 & 6 弦を使う場合も同じフォーム



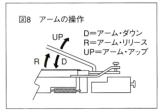


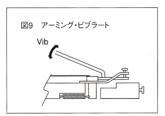
■ その他の奏法 ■

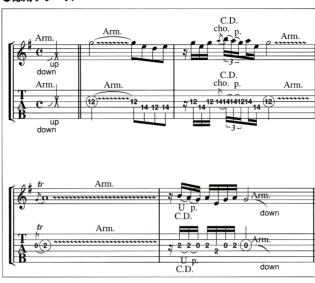
17アーミング



トレモロ・アームを使って音程を変化させる奏法。図8に示したアーム・ダウン、アーム・リリース、アーム・アップ、図9のアーミング・ビブラートなどがその代表的なアーム操作(それぞれの操作を示す記号は省略されるケースも多い)。ただし、アーム・アップはトレモロ・ユニットをフローティング状態(エンド・ピン側がボディに接触しないで浮き上がった状態)でセッティングしてあるギターでないと不可能。







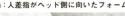
18スクラッチ

●ピック・スクラッチ

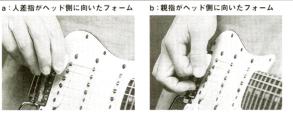
Pick Scratch (P.Scr.)

ピックの側面で巻弦をこすり、"ギュイ~ン"というノイジーなグリス音を 出す奏法。フォームは写真形のaかbが一般的。このヘッド方向に移動させ る動きに、逆方向(ブリッジ側)に移動する動作を組み合わせたり、小刻みに 往復させたり、また、プレーン弦上で円運動をさせて小鳥の鳴き声のような 音を出したりと、アイディア次第でいろいろなバリエーションも作り出せる。 なおピックの材質によってはスクラッチ音が出にくいものもあるので、いろ いろなピックで試してみよう。

◎ピック・スクラッチの代表フォーム◎







●ハンド・スクラッチ

Hand Scratch (H.Scr)

手のひらや側面で弦をこすって、ヒップポッフDJ風のスクラッチ音を出す 奏法。一応、写真16aに一般的な(?)スクラッチ・フォームを示しておくが、 別に決まったやり方はないので自由にこすりまくってOK。ちなみに写真16b は、現代ロック・シーンをリードするカリスマ・バンドのひとつレイジ・アゲ インスト・ザ・マシーンのギタリスト、トム・モレロのスクラッチ・フォーム だ。これらにスイッチング奏法(後項参照)やワーミー・ペダル(ペダル可変式 のピッチシフト・エフェクター) などをかませると気分はもう DJ だ!

◎ハンド・スクラッチのフォーム例◎

a:右手側面でゴシゴシ



b:左手の手のひらでゴシゴシ("トム・モレロ風")



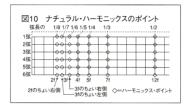


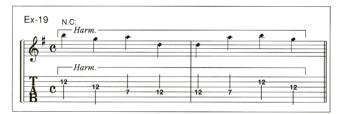
19ハーモニックス

●ナチュラル・ハーモニックス

— *Harm*.—

開放弦上に点在するハーモニックス・ポイント(図10)の"真上"を左手の指 で触れ、ピッキング直後に弦を離して出す"ポーン"という倍音をナチュラ ル・ハーモニックスと呼ぶ(よくチューニングの時にやるアレね)。このナチ ュラル~はアーミングと組み合わせてトリッキーなサウンドを作ったりもす る他、熟知するとこれだけでいろいろなメロディが作れたりもする。Ex-19 はジェフ・ベックで有名な"学校のチャイム"だ!





●その他のハーモニックス技

40

— *На*гт. —

図10に示した、開放弦の総弦長と各ハーモニックス・ポイントとの相対的 な位置関係は、押弦した場合の総弦長に対しても(距離は縮小されるが)その まま当てはまる……これを利用したのがここで紹介するふたつのハーモニッ クス技だ。

3弦7fを押弦した場合、その1/2の弦長に相当する(12フレット分上の)同 じ弦の19f真上のハーモニックス・ポイントを、右手の指先で触れてピッキン グしてハーモニックス音を出すのが写真①の"人工ハーモニックス"、右手の 指先で叩いて出すのが写真®の"タッピング・ハーモニックス"。この場合、 出てくるハーモニックスは両奏法とも押弦音の1オクターブ上の音だ(この 奏法を応用すると、弦長の1/3の14f上や、1/4の12f上のハーモニックス・ポ イントに移動させて、さらに高いハーモニックス音を得ることもできる)。







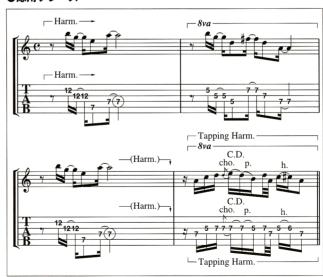
人工ハーモニックス



人差指で(19 f 真上の)ハーモニックス・ 右手の指で(19 f 真上の)ハーモニック ポイントに触れ、親指と中指で持ったピ ス・ポイントを叩き、すぐに引き上げる ックでピッキングしたのち人差指を離弦



41



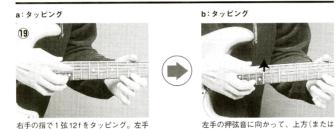
20タッピング

は次の音を押さえておく

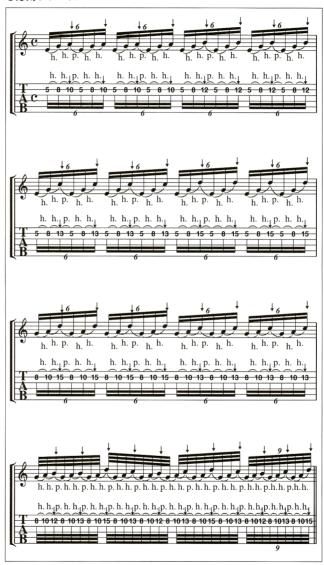
— tapping —

フレットとフレットの間の弦を指先で叩いて(ピッキングなしで)音を出す奏法。そのタッピングを右手で行ない、それにプリングやハンマリングを絡めたパターンを演奏する奏法を、ひと昔前まで"ライト・ハンド奏法"(タッピングに使う指は人差指か中指が一般的。その指からのプリングは上方に向けて行なうギタリストが多い)と呼んでいたが、現在ではそれも含めて、すべてタッピングと呼んでいる(ようだ)。Ex-20はライト・ハンド奏法の基本的なパターンで、写真⑬a&bがその軸となる動作だ。なお譜面上のタッピング記号はいまだに統一されていないのが現状だが、弊社ではライト・ハンド系奏法の場合はタッピング位置を矢印で示す譜例の表記法が定着している。

◎ライト・ハンド奏法の基本動作◎



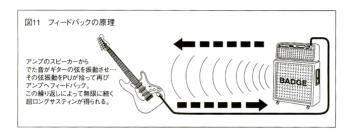
下方) にプリング

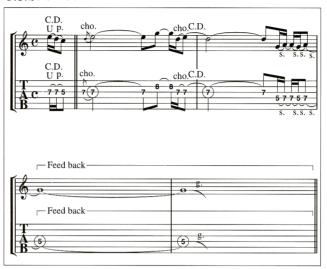


②フィードバック奏法

Feed back

アンプから出る大音量の音にギターの弦が共振して起こるロング・サステインをフィードバックと呼ぶ(図11/最近ではこれを電気的に作り出すピックアップも市販されているので、それを使うと小音量でも疑似フィードバックが可能)。アンプとギターの角度や距離、立ち位置などによって、うまくフィードバックする場合としない場合があるので、ライヴなどでは事前にそのフィードバック・ポイントをチェックしておく必要がある(ギターの角度を変更したり立ち位置を移動したりすることで、フィードバックの音程を何種類かに変化させて使い分けることもできる)。





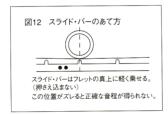
22スライド・ギター

「Slide」または「bottleneck」

スライド・バーを左手の指にはめ、それを弦上で滑らせながら弾く奏法を スライド・ギター(またはボトルネック奏法)と呼ぶ。スライド・バーには金 属製のものやガラス製のものがあり、それぞれ微妙に音色が異なる。スライ ド・バーは(ナット~バー間の共鳴防止の都合上) 人差指以外ならどの指につ けてもOK。一般的には写真⑲aの薬指か⑲bの小指に装着するギタリストが 多い。

スライド・ギターの奏法ポイントは、スライド・バーを目標音のフレットの 真上に位置させる (図12)、不要弦ノイズを右手でフレキシブルにカットして いく……この2点。後者のミュート作業に関しては、ピック弾きよりもフィ ンガーピッキングの方が有利とされている。特に Ex-21 のレギュラー・チュ ーニングでのスライド・プレイでは、この不要弦ミュートが大きな鍵を握る こととなる。

なお、ブルージィ系のスライド・ギターでは、オープン・チューニング(全 弦の開放音を鳴らした際に、それがなんらかのコードになっているチューニ ング法)を用いるケースが圧倒的に多い。



◎スライド・バーを装着する指◎

a:薬指



スライド・バーが安定し、コントロール 他の指を使う押弦プレイとの併用に有利 しやすい

b: 小指







23ボリューム奏法&スイッチング奏法

●ボリューム奏法

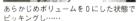
なし (_____)

ギター本体のボリューム・ノブを"0"にした状態でピッキングし、その直後にボリュームを上げてアタック感のない音を作り出す奏法(写真20)。そのニュアンスがバイオリンの音に似ていることから"バイオリン奏法"とも呼ばれる(同様の効果はボリューム・ペダルを使っても作ることができる)。ボリューム・ノブが弦から遠い楽器の場合は、左手のタッピングで音を出し、右手はボリューム・ノブの操作だけをやる、という手もある。

◎ボリューム奏法の動作◎

小指をボリューム・ノブに添えたフォームで……





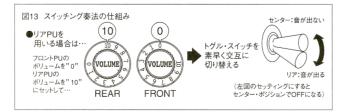


小指でボリューム・ノブを回してしり上 がりに音量を上げる

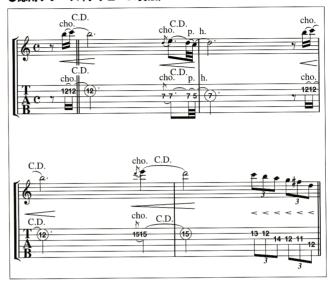
●スイッチング奏法

switching

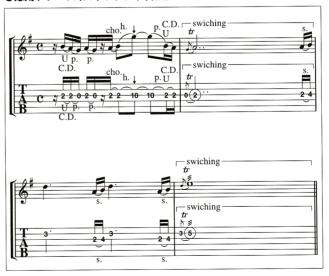
レスポールなどに装備されている、ピックアップを選択するトグル・スイッチを素早く切り替えて断続音を作る技(図13)。奏法としては古くからあるが、レイジ・アゲインスト・ザ・マシーンのトム・モレロがこのスイッチング(トグリング)にワーミー・ペダルやタッピングを組み合わせて、刺激的なトリッキー・サウンドを作り出していることから、最近再び注目されている。



●応用フレーズ(ボリューム奏法)



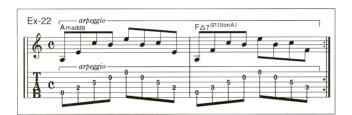
●応用フレーズ(スイッチング奏法)

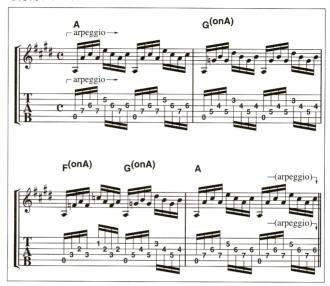


24アルペジオ

arpeggio (arp.)

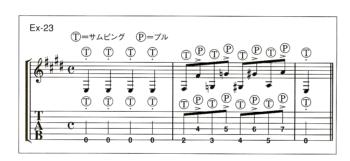
コード・フォームなど複数の弦を分散させて弾く際に、左手の押弦状態をキープして、それらの音が重なり合うように演奏するのがアルペジオ。単純なコード・フォーム分解から、ボイシングに凝ったものや、ボジショニングをひと工夫したものまで、内容的にはさまざまなアプローチがあるが、その中に開放弦をうまく配置してやるとギターならではの響きのグッド・サウンドが生まれる。これはギター・アルペジオの定石手法のひとつだ(Ex-22)。

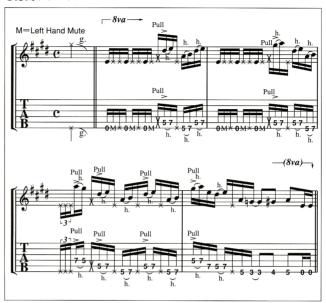




25スラッピング

スラッピング(チョッパー)は、もともとベースで使われていた奏法だが、最近ではギターで使われる事もあるようになってきた(Ex-23)。スラッピングには、右手の親指で弦をたたくサムピング(thumb)と人さし指等で弦をひっかけるプル(pull)がある。サムピングの方は親指を立て、手首の回転と前腕(肘から先)の動きで弦をヒットする。たたき方には3種類あり、A.叩いた瞬間に親指がはね返る方法。B.弦を叩いたあと下へ通過方法。C.親指を弦の下に入れて、上に引っぱり上げて引っ掛ける方法がある。親指を弦に当てる位置は、第一関節の横のあたりが一般的である。プルは、人さし指(時には中指)で弦を引っぱってフレットに弦が"バシッ"と当たる奏法をいう。それから、左手の方のテクニックになるが、ミュートのパターンとして普通にネックを握った状態で、左手の手のひらを使って勢い良くたたき、アタックのあるミュートを入れる事があるが、今回譜例ではMと表記させて頂いた。





企画制作:リットーミュージック ※ この譜例集の無断複製は法律で禁止されています。

